

# あおぞら21



- 災害公営住宅の買取りを可決（5月会議）…… 2
- 災害復興支援特別委員会が現地視察（委員会報告）…… 4
- 地域おこし協力隊について議論する（あおぞら会議）… 5

表紙：総合的な学習の時間での田植え体験（御船小：6月21日）

5月定例会

30年6月30日

No.129

熊本・みふね町議会

# 災害公営住宅(古閑迫地区)の買取りを可決

5月会議を5月10日に開催した。財産の取得についての議案1件を審議採決した。

## 5月議会で決まったこと(5月10日)

議案号数	簡易議案名	概要	質疑・討論の有無	採決結果
議案3	財産の取得について	古閑迫地区災害公営住宅買取りにおける財産取得契約	有	反対者 田上議員

### 議案第3号 財産の取得について

#### 災害公営住宅の議案を再提案

**中城議員** 4月議会と同じ物価上昇率20%を見込んだ総額3億4,600万円の契約金額だが、これは、概算工事費の仮契約という理解でよいか。

**野口建設課長** その通りだ。

**中城議員** いつ発注して、工事期間はどれくらいか。

**野口課長** 5月議会で承認をいただければ、5月15日から早速宅地の造成工事に入り、来年の3月31日までを工期としている。事業の進捗具合によっては繰越措置をして、5月までには竣工したい。

**中城議員** 現在の状況では、1年程度の工事期間で、物価が20%上昇するとは思わないが、完成時に物価上昇率の割合で変更契約をするのか。

**野口課長** 20%の物価上昇の枠には、物価の変動分と労働者確保分、それから予備費分を含めた上昇率である。労働者、特に遠隔地からの職人を

採用した場合にも、この20%枠内で対応する。

**中城議員** 物価上昇率の基準は何で算定するのか。

**野口課長** 物価の積算資料等の刊行物があるので、参考にしていく。

#### 総額の4分の1が町負担

**中城議員** 完成時変更契約の内容を注意深く見ていきたい。財源についてはどうか。

**野口課長** 国が4分の3、町が4分の1負担で、その約8,600万円は起債で対応する。交付税措置はない。

#### 地場企業の育成については

**中城議員** 今回は都市再生機構という公的機関との仮契約だが、地場企業の育成についてはどう考えるか。

**野口課長** 4月24日に都市再生機構で、企画競争提案方式で業者の特定をされている。この中の評価の1つに地域貢献という項目があり、地元の業者にも打診して、双方合意すれば地元の業者を使ってい

くことになる。

**中城議員** 災害公営住宅の木造はあと5カ所あるので、ぜひとも地元の業者に声をかけをお願いしたい。

#### 物価上昇率を含んだ予算は過去にない

**田上議員** これまで物価上昇率を加味した予算は聞いたことがないが。

**野口課長** 今回の財産取得は、最終的にでき上がったものを買取るという方式になるので余裕を持たせた予算を計上している。

**藤木町長** 都市再生機構は過去の震災で多くの災害公営住宅を建設した経験があり、災害公営住宅をいち早く町民の方に利用していただくための策と考えている。

#### 災害公営住宅の売却は

**沖議員** 災害公営住宅を必要な方に後で売却する考えはないか。

**野口課長** 国からの補助が4分の3あり、補助金の趣旨に

そぐわない。県の指導で売却しないことになっている。

**沖議員** 甲佐町は売却すると言っているが。

**藤木町長** 災害公営住宅を建てる段階で、売却ということ念頭に置いて建てることはできない。しかし、被災者がだんだん少なくなってきた場合は、私の判断において考えていく。

**沖議員** 今後の災害公営住宅の状況を見て、売却も視野に置いて対応してほしい。

町営住宅を含め公営住宅をこれ以上増やしたら、町は運営が大変だ。今回100戸作った場合、公営住宅は何戸になるか。

**野口課長** 現在、町営住宅は440戸あるので、合計550戸になる。

この中で、老朽化が進んでいる町営住宅の住み替え等を進め、住宅の戸数を調整していく。

## 反対討論

**田上議員** 物価上昇率を加味した予算というのは、今までにはなかった。

現在の価格で予算を出して、その後補正を組んでいくことが当たり前だ。

最初から予備費や物価上昇

率等を含むと、安易になり、高額になることを懸念する。

**沖議員** 災害公営住宅の建設には賛成だが、坪単価についてはもう少し検討が必要だ。

## 賛成討論

**福永議員** 災害公営住宅は、一日も早く建てなければならぬ。

今回提示された金額は高いと思うが、他町村の同じ建物を見れば、容認せざるを得ない。被災者のためにも一日も早く可決すべきだ。

## 災害公営住宅完成予想図



□南西上空より住宅地を望む／隣同士2戸1の緩やかなコミュニティ単位が5つ集まって一連の戸建住宅群を形成するイメージ

# 災害復興支援特別委員会が現地視察

災害復興支援特別委員会委員長 清水 聖

5月14日、災害発生から3年目を迎え、今年も田植えができない地域の視察を行った。

水越五ヶ瀬地区～山都町島木地区～松の生・向山地区～東上野地区～古閑迫地区を、地元の区長や地権者の方々に案内を受けながら各所を視察した。

特に、松の生・向山地区については、山都町島木地区の河川上流に取水口があり、地震で崩れた岩石が水路を塞いでいる状況であった。復旧工事における入札が行われたが2度の不調であった。

東上野地区は、水路及びため池の亀裂や崩落などにより復旧工事を依頼しているが、



農地災害現地視察（向山地区）

施工業者は決まっているものの、施工が遅れているのが現状であった。

視察の結果を持ち帰り、担当課と検討を行い、施工業者が決定している箇所について

は、早急に工事を進めるよう担当課へ要請を行った。また、入札不調・不落の工事箇所については、町、県及び国への要望活動が急務である。



被害水路（取水口付近）の視察（山都町島木地区）

# 地域おこし協力隊について議論する

御船町議会議員 岩永宏介

5月15日、「オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト（福味総一郎会長）」からの申込みを受けて、『町内で活動する地域おこし協力隊について』をテーマに開催した。会議内容の概略は以下のとおり。

隊員名	所 属	現在の主な業務とこれまでの取組み等
緒方 綾香さん	オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト	通宝海苔と共同し、水前寺菜を使ったふりかけの商品化
成瀬 育枝さん	オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト	復興祭の企画・運営、町外イベント等で町のPR活動
永瀬 昌喜さん	オールみふね恐竜の郷復興プロジェクト	オールみふね3部会に所属し、オールみふねHP立ち上げ
藤谷 成人さん	御船町観光協会	緑の村のアウトドアメニューの開発と実施、町特産品のPR
斎藤 康司さん	御船町観光協会	御船の特産品「いさぎ」を中心にしたセット商品の販売促進
堀永 圭佑さん	田代東部地区	里山の景観（棚田）を維持したいとの思いで主に米作り

**まとめ** 若き地域おこし協力隊の地域おこしにける熱い思いに触れ、参加した議員からは、「本当に頑張っている」、「地域はパワーをもらっている」との声が聞かれた。このあおぞら会議を取りまとめた福味総一郎会長、岩瀬英次観光協会事務長には誌面を借りて御礼を申し上げたい。



活動報告を行う地域おこし協力隊員

# 一般社団法人御船町観光協会の現状と方向性

御船町議会議員 岩田重成

5月21日、午後7時より、観光協会と「事業報告と観光事業の方向性」と題し、あおぞら会議を行った。まず、議長より挨拶があった。

**議長** 「熊本地震から2年が経過し、一時はどうかと非常に心配したが、町民の皆様の底力で必ず復旧するのだという思いで、一步一步前進してきた。当時は、観光どこの話ではないというような時を過ごしたが、時が経つにつれ、次第に外部からの観光客が御船町を訪れるようになった。地震で被災した恐竜博物館も新しくなり、5月の連休、そして夏休みに入る7月から企画展も開催されるので、さらに多くの観光客が訪れることと思っている。また、吉無田高原緑の村に、新たな

宿泊施設が完成した。そして来年の春には九州中央自動車道が山都町の（仮称）北中島インターまで開通する。町には小池高山インター、そして（仮称）上野インターと2つのインターができ、県内外からの観光客も増え、観光事業としての一躍を担うことになる。」

次に、観光協会永本会長より挨拶があった。

**永本会長** 「観光協会は、補助金だけもらって何をしているのかわからないという声があると聞いた。これは私達が基本としている『つなぐ み がく 発信』の、『発信』に関しての反省点となる。これからも、今まで以上に私達が行っている活動を発信していかなければならないと思って

いる。

今回、地域おこし協力隊2名体制に、承認された職員を加え3名体制になり、やっと観光事業においてスタートラインに立つことができたと思っている。」

その後、事務局より観光協会の平成28年度から30年度の開催事業の報告があった。熊本地震で被災したにも関わらず、多くの事業を行われていた。また、観光協会の現状やこれからの方向性について説明を受けた。さらに、議員の思いや観光協会の思いをそれぞれ出し合うことができた。

今後は、観光協会と議会が何事においても話し合いをすることが町の発展につながると思い、ここに報告する。



観光協会と議員の意見交換

## 御船町議会の活動が、政治学の先生から評価されました！

6月7日付け熊日新聞に、熊本大学法学部伊藤洋典教授（政治学）が、熊本地震後、非常時こそ議会の存在意義が発揮されるのではないかと考え、県内の4市町村議会の活動状況を論文にまとめられた、と書いてありました。そ

の中で同教授は「注目したのは御船町議会。地震後も通年議会の利点を生かし、全員協議会を頻繁に開いて被災状況の把握や対応の検討を重ねた。その結果を町への要望書にまとめ、町の対応も議会の広報誌で知らせた。議会報告

会でも住民の不安や疑問を聞くなどした。住民の声を執行部に伝え、施策に反映させる役割を果たす努力は評価したい」と述べておられます。詳しくは6/7熊日1面「この人に聞く 熊本地震」の欄をご覧ください。（岩永宏介）

## 5月の議会活動は多岐にわたりました

月日	項目	参加者	場所等
5月7日	産業厚生常任委員会		審議会室
	総務文教常任委員会		委員会室
	全員協議会	全議員	審議会室
	災害復興支援特別委員会	全議員	審議会室
5月8日	上益城郡議長会臨時会	田端議長	嘉島町役場
5月10日	5月定例会議	全議員	
5月13日	御船高校体育祭	清水副議長	御船高校
	緑川水防演習	田端議長	美里町
5月14日	災害復興支援特別委員会 現地視察	全議員	御船町内
5月15日	長崎県平戸市議会視察（議会広報）	広報委員会	審議会室
	九州中央自動車道建設促進沿線議会期成会理事会及び幹事会	田端議長	役場大会議室
	あおぞら会議（オールみふね 恐竜の郷復興プロジェクト）	全議員	オールみふね事務所
5月16日	長崎県長崎市議会視察	田端議長	恐竜博物館
5月19日	御船町文化協会総会	田端議長	とらや
5月21日	あおぞら会議（一般社団法人御船町観光協会）	全議員	役場大会議室
5月22日	愛知県豊川市議会視察	清水副議長	審議会室
	熊本県町村議会議長研修会及び臨時総会	田端議長	自治会館
5月23日	九州中央自動車道建設促進沿線議会期成会合同幹事会及び理事会	田端議長	役場大会議室
5月24日	加勢川改修促進期成会総会	田端議長	ホテルニュースカイ
	御船町企業連絡協議会通常総会	清水副議長 藤川総文委員長	とらや
5月25日	上益城広域連合例月出納検査	清水副議長	上益城広域連合
	御船町商工会通常総会	田端議長	御船町商工会館
5月26日	平成30年度 議会報告会	全議員	役場大会議室 上野保育園
5月28日	平成30年度町村議会議長・副議長研修会	田端議長	東京国際フォーラム
5月29日		清水副議長	
5月30日	御船町嘱託員会総会	田端議長	役場大会議室
5月31日	主要地方道矢部阿蘇公園線整備促進期成同盟会総会	田端議長	通潤山荘（山都町）

かがやく



ひと



高木保育園園長  
沖田 昌史さん

## 地域に根ざした保育園

熊本地震より、大きな被害を受け、2年にわたり仮園舎での不自由な生活を強いられた町立高木保育園の廃止が決まり、今年4月より新たに社会福祉法人南苑会が設立した新高木保育園として発足しました。そして町立時代の高木保育園の名称と園歌をそのまま受け継いで運営することとしました。それは40年の高木地区の皆さんの思いを引継ぎ、地域に根ざした保育園を目指していくとの思いを表したかったからです。85人定員に4月当初65名のスタートという20名の定員割れでのスタートは大きく経営を圧迫しますが、手厚い援助で落ち着いた保育園をと頑張っています。熊本地震の影響で園舎の建築費も高騰し、園庭の遊具等も資金難ですぐに整備が難しくなりましたが、園庭での運動会の開催や、お泊まり保育など、今しかできないことを工夫して行うこととしていきます。そんな中、全国の様々な支援団体や地域の方々から援助を受け、備品や遊具等も充実してきています。地域の方々に信頼され頼られる、子どもたちのはじける笑顔溢れる高木保育園となるよう頑張っていきたいと思えます。

## 議会の予定7月

2日	議会運営委員会
3日	兵庫県丹波市議会視察受入れ 災害復興支援特別委員会 産業厚生常任委員会
5日	宮城県黒川地方町村議会議長会視察受入れ
6日	全員協議会
9日	常任委員会及び議会運営委員会委員長研修会 (熊本県議長会主催)
10日	山口県議会視察受入れ
11日	九州中央自動車道建設促進沿線協議会協議会決起大会
12日	議会(予定)
17日	熊本中央一般廃棄物処理施設整備促進協議会(第2回)
24日	上益城郡議長会定例会
25~26日	熊本中央一般廃棄物処理施設整備促進協議会視察研修

## 編集後記

毎月、本町議会において、議員の質疑とそれに対する町執行部の応答が練り広げられる。多くの議員がそれぞれの観点から執行部を問い質す。これが議会の大きな役割、「監視(チェック)機能」である。質疑が活発になればなるほど、われわれ広報編集委員の責任は重くなる。数多い質疑応答の中から、記事にする質疑を選んで広報誌に載せなければならないからだ。紙幅が限られていることが悩ましい。どれを載せ、どれを削るかの編集作業は特に神経を使うが、編集委員全員で話し合い、決めることを旨としている。

議会は、「言論の府」である。議員の自由な発言は最大限保障されてしかるべきだ。選挙で選ばれた議員、つまりは「選良」であるからなおさらだ。誹謗中傷、名誉

棄損、人権無視等の類の発言は許されない。議員一人ひとりの良識、抑制、責任が求められるのは当然だ。

今後とも、緊張感をもって編集に当たりたいと強く思っています。また、読者の皆様のご意見、ご指摘には謙虚に耳を傾け、編集に当たって参ります。読後感等お寄せいただければ幸いです。

委員長 岩永宏介

### 議会広報編集特別委員会

発行責任者	田端 幸治
委員長	岩永 宏介
副委員長	中城 峯雄
委員	岩田 重成
委員	清水 聖
委員	田上 忍
委員	森田 優二